



【真狩村】

## 真狩森の会



### 村内外の山主たちが連携

真狩村は、札幌市から南西に車で約1時間半、「蝦夷富士」とも呼ばれる秀峰・羊蹄山の南麓に位置する自然豊かな純農村です。歌手・細川たかしの生地としても有名ですね。

私たちの活動エリアは、その真狩村の一番南側に位置し、留寿都村・洞爺湖町・豊浦町との境界に接しています。火山灰が堆積した標高250m前後の台地で、ボーリングしても地下25mまでは石も水も出ないような地質です。これが、ジャガ芋・ユリ根・大根・ニンジン・豆類・長芋・プロッコリー・スイートコーンなど、およそあらゆる種類の野菜にとって耕作適地であったため、この一帯では、なだらかな山林はすべてブルドーザーで畑地に転換されてきました。農地にならない地形の場所だけが「残地山林」としてクマザサに覆われたまま放置され、いわゆる里山のようにアクセスしやすい森林は、ほとんどありません。

そんなクマザサのジャングル地帯に作業道を通そうというアイデアが生まれて、私たちの活動が始まりました。親の代から山林を引き継ぐ地元農家や、村外在住の山主さんたち計6人に声をかけて計画を立て、この森林・山村多面的機能発揮対策交付金制度を利用して、計30haの山林の手入れに取り組んでいます。

現地を調べてみると、団地の東寄りに、半世紀前に開削されたとみられる作業道(約1000m)の痕跡が見つかりました。また現在は、団地の西側に延長1500mの道を開通させるべく、少しずつ作業を進めているところです。

私たちの「森の会」には、現役農家のほか、山仕事の経験を持つ退職農家や、ニセコのスキー場で森林作業をしていた人、大型トレーラーのオペレータ、自動車修理のプロ、また事務経験者など、多様な「スーパーボランティア」たちが参加し、それぞれ特技を生かした活動をしています。

### 人生をあと30年楽しむ舞台

広大な面積を効率的に手入れするために、ツル切りや枯損木・不要木処理は、春先の堅雪時期に実施しています。

また、作業道の開削などで生まれる伐木は、薪材として販売しています。村内のほか、ニセコ町・伊達市・蘭越町・札幌市・岩内町のお客さんたちが配達を待っていてくれるので、仕事に張り合いが出ます。毎年、50㎥以上の薪材を出荷しています。

平成30年度は、ボランティアや作業者のベースキャンプとなるよう、カラマツやトドマツ材を利用し、休憩小屋を完成させました。

木材貿易が自由化されてから「山の木を売ろうにもお金にならない」と、農家林はなかば放置されてきたと思います。かつてこの地域の農家にとって、自家用の薪製造や造林業のアルバイトなどは冬期間の重要な仕事で、ほぼ全員が山林技術を習得し、農家林経営が継承されていました。ところがこの半世紀、自分の山に入り、手入れする農家林家はほとんど絶えていました。

でも最近、都市部と農村の交流を図るボランティア、再生可能燃料として薪を選ぶ消費者、田舎暮らしの夢を抱く新しい地主さんなどが、そんな農家林に注目し始めています。ニセコに憧れてやってくる移住者や新規就農者には冬のアルバイト先として、また農業経営から引退した中高年者たちには「人生をあと30年楽しむための舞台」として、私たちの森を活用してもらいたいと願っています。

ナラ・イタヤなどの広葉樹を稚樹から森になるまで育てるのは200年がかりの仕事になります。そこに50~60年サイクルのカラマツ・トドマツ人工林を組み合わせながら、自然にやさしく、後世に喜ばれる山林を育てていくために、他のグループとも交流しながら、「そだね〜」の励ましの言葉と笑顔を交わしあって、活動を続けていきたいと思っています。



【報告者】



後藤進さん